

2022年11月10日

## ワークショップ 取材依頼

11月20日開催！

アートを介した対話プログラム 対話型鑑賞ワークショップ  
～医療・福祉分野で働く方対象～

医療・福祉分野に従事されている方、これから従事されようとしている方を対象に対話型鑑賞のワークショップを行います。唯一の正解のない美術作品を、複数人で対話しながら鑑賞するワークショップです。以下のとおり開催いたしますので、取材のご協力、よろしくお願い申し上げます。

## ※申込は締め切りました。

日時：2022年11月20日(日)  
10:00～17:00(休憩含む)

場所：福岡アジア美術館あじびホール  
(福岡市博多区下川端町3-1リパレインセンタービル8階)

参加費：3,000円(アジアギャラリー鑑賞チケット付き)

定員：40名

対象：医療・福祉に従事されている方、これから従事されようとしている方

講師：伊達 隆洋

(アート・コミュニケーション研究センター 研究員/京都芸術大学アートプロデュース学科 准教授・学科長/関西医科大学 非常勤講師)



専門領域は人間科学・臨床心理学。心理臨床現場での実践を行いながら、人の持つ「自分」という感覚とコミュニケーションの関係を研究。2007年度より2年間、ACOPに参与観察者として参加。コミュニケーションという視点から、ACOPを通じて生じる人の変化について分析を行う。2009年京都芸術大学着任後は、学生への講義の傍ら、近年は美術館・博物館、教育関係者のみならず、企業においてACOPを礎としたセミナーを開催し、人材育成や組織改善に役立つとの高い評価を受けている。現在はACOPのファシリテーション・スキルを医療分野に応用しようという試みから看護教育などの医療従事者にまでそのフィールドを拡げ活躍中。

福岡市文化芸術振興財団では、昨年度、「対話型鑑賞」を応用した3つの鑑賞ワークショップを行いました。ワークショップの様子、参加者の声など昨年度のレポートはこちらからご覧ください。

<http://www.ffac.or.jp/reports/detail87.html>



社会参加促進事業 アートを介した対話プログラム

## 対話型鑑賞ワークショップ

～医療・福祉分野で働く方対象～

患者さん、利用者さんなどのケアに関わる方  
アートを使って  
コミュニケーションに新たな視点を取り入れませんか？

医療・福祉分野に従事されている方、これから従事されようとしている方を対象に対話型鑑賞のワークショップを行います。  
唯一の正解のない美術作品を、複数人で対話しながら鑑賞します。  
作品を「観察」し、「考え」を「話し」、ほかの参加者の考えを「聴く」などといった「みる・考える・話す・聴く」の繰り返しによって、観察力・思考力・コミュニケーション力を深め、広げることにつながります。  
このワークショップでは作品の知識は不要です！  
美術になじみのない方も楽しみながら学べます。

2022年11月20日(日) 10:00～17:00  
福岡アジア美術館 8階あじびホール  
お問合せ | (公財) 福岡市文化芸術振興財団 TEL 092-263-6265

賞の花が枯れて見えます。

大きな花のくわい？

花の顔が隠れているように見えるな！

以前、私が育てていた花に似ている。

主催：(公財) 福岡市文化芸術振興財団、福岡市  
共催：福岡アジア美術館  
後援：(社福) 福岡県社会福祉協議会、(社福) 福岡市社会福祉協議会

## 【お問合せ】

(公財) 福岡市文化芸術振興財団 事業課

TEL：092-263-6265 (平日 9:30～17:00)

y.miyamura@ffac.or.jp (担当：藤(トウ)・神近)